

にちどくこうりゅう  
日独交流 160 周年

ドイツのほん

2021年は、日本とドイツが交流をもって160年となる年です。

ドイツのおかしな絵本、物語などを紹介します。

本を読んでドイツへの理解を深めましょう。



( ) 内は請求記号です

★印にはシリーズがあります

おかしな絵本 (えほん)

グリム兄弟は約200話のおかしな絵本を集めて、残しました。それがグリム童話です。

えほんになっているグリム童話を紹介します。

『あかずきんーグリム童話ー』

グリム/[原作] 大塚勇三/やく

堀内誠一/え 福音館書店 (E.M アカ)

おばあさんにもらった赤いずきんをいつもかぶっていた女の子は、みんなに赤いずきんとよばれていました。ある日、赤いずきんは、おかしとぶどうしゅをおばあさんのところへとどけるおつかいをお母さんにたのまれます。

『あくまの三本の金のかみの毛ーグリム童話ー』

グリム/[作]

ナニー・ホグロギアン/さいわ・え

あしのあき/やく ほるぷ出版 (E.M アク)  
まずしいふうふのもとに生まれた男の子は、一生しあわせて、しかも、王さまのおすすめとけっこんするというよげんをうけます。でも、心のまがった王さまは、よげんが気に入りませんでした。

『うできき四人きょうだいーグリム童話ー』

グリム/[著] フェリクス・ホフマン/画

寺岡寿子/訳 福音館書店 (E.M ウテ)

びんぼうなおとうさんは、大きくなった四人のおすこに、「町をでて手しごとをならってくるように」といいました。おすこたちは、それぞれの道をすすみます。そして、どろぼう、星のぞき、かりゅうど、したてやとなつてかえってきました。

『おやゆびこぞうーグリム童話ー』

グリム/[原作] フェリックス・ホフマン/え

大塚勇三/やく ペンギン社 (E.M ヲ)

まずしいふうふは、「たったひとりでも、子どもがほしい」と話していました。七か月たち、おかみさんは、おやゆびくらの子どもをうみます。たくさん食べても、おやゆびこぞうは大きくはなりませんでしたが、旅にでて、かきこくきりぬけるちからをもっていました。

『かえるの王さま—または忠臣ハインリヒグリム童話—』

グリム/[原作] ビネッテ・シュレーダー/絵

矢川澄子/訳 岩波書店 (E.M 加)

ある日、おひめさまはお気に入りのまりを泉におとしてしまいました。そこへあらわれたかえると「拾ったら、おひめさまのあそび相手にする」と約束しますが、かえるが水にもぐってまりをひろうと、おひめさまはまりだけもって、城へかえってしまいました。かえるはおひめさまをおいかけ、城へおかいます。

『金をつむぐこびと

—グリム童話 ルンペルシュティルツヒエン—』

グリム/[原作]

バーナデット・ワッツ/絵

ささきたづこ/訳 西村書店 (E.M キ)

水車小屋のおやじは、おすめをじまんするために「うちのおすめは、わらで金をつむぐことができる」と王さまにいつてしまったから、たいへんです。おすめは、城につれていかれて、わらを金にできないとしぬことになるといわれてしまいます。

『くまの皮をきた男—グリムの昔話—』

グリム/[著] フェリクス・ホフマン/絵

佐々梨代子/訳 野村滋/訳 こぐま社

(E.M ク)

戦争がおわりました。兵隊だった男は、いくあてもなく、しょんぼりとしています。そこへ、見知らぬ男があらわれて、「七年間からだをあらわず、ひげにも髪にもくしをいれても、つめを切っても、祈っても、ならない。そして、くまの皮の上着を着て生きつづけたら、金持ちにしてやろう」と取りひきを持ちかけてきました。

『こびととくつや—グリム兄弟の童話から—』

グリム/[原作] カトリーン・ブランク/絵

藤本朝巳/訳 平凡社 (E.M 北)

まずしい正直者のくつやの主人は、さいごに残った一足分のくつの皮をくつのかたちきと形に切り取りました。そして、くつをぬうのは明日にしようとしてベッドにはいります。よくあさ、つくえの上にはできあがったくつがおいでありました。つぎの日も、そのつぎの日も、くつはできあがっていました。ある夜、くつやの主人とおかみさんが、そっとかくれてまわっていると、くつをせっせとぬいあげていたのは、二人のはだかのこびとでした。

『しあわせハンス—グリム童話—』

グリム/[原作] フェリクス・ホフマン/え

せたていじ/やく 福音館書店 (E.M シ)

七年間奉公をしたハンスは、母さんがまつ家にかえりたいと、主人につたえました。主人は、お給金として、ハンスのあたまほどのおおきさの金のかたまりをひとつくれました。家へのたびのとき、ハンスは馬にのった男にあい、金のかたまりと馬を取りかえます。ハンスは、つぎからつぎへとこうかんをくりかえしながら、母さんのまつ家へ、かえっていきます。

『ヘンゼルとグレーテル』

グリム/[著] バーナデット・ワッツ/絵

相良守峯/訳 岩波書店 (E.M ハ)

ある夜、ヘンゼルとグレーテルは、ママ母とおとうさんが森のいちばんおくぶかいところへ二人を捨てようとはなしあっているのをきいてしまいます。いもうとのグレーテルは泣きだしてしまいますが、ヘンゼルは、そとへしのびでて、キラキラひかる白い小石をたくさんあつめ、うわぎのポケットに入れておきました。

『ミリー—天使にであった女の子のお話 グリム童話—』

ヴィルヘルム・グリム／原作

モーリス・センダック／絵

ラルフ・マンハイム／英語訳

神宮輝夫／日本語訳 ほるぷ出版 (E.M ミリ)

ミリーは、<sup>ははおや</sup>母親とふたりでしあわせにくらしていましたが、はげしい<sup>いえ</sup>くさが家までせまってきました。<sup>ははおや</sup>母親は、「三日<sup>みっか</sup>じっとまってから、もどっておいで」といって、どんな<sup>てき</sup>敵でもけっして追いつかない<sup>もり</sup>森のおくへ、おすめをにがします。そしてミリーは、おくへおくへと<sup>もり</sup>森にはいっていきました。

『ロバのおうじ』

グリム／げんさく M.ジーン・クレイグ／さいわ

バーバラ・クーニー／え もきかずこ／やく

ほるぷ出版 (E.M ロバ)

<sup>こ</sup>子どものいない<sup>おう</sup>王さまとおきさきさまは、まほうつかいに「<sup>こ</sup>子どもをさずけてほしい」とねがいました。まほうつかいは、ねがいをかなえるかわりに「<sup>きんか</sup>金貨を33ふくろはらうように」といいました。しかし、<sup>おう</sup>王さまは、にせものの<sup>きんか</sup>金貨でまほうつかいをだまします。おこったまほうつかいは、ロバそっくりの<sup>こ</sup>子どもをさずけました。

☆そのほかにおすすめしたい本☆

『赤ずきん』

グリム／原作 バーナディット・ワッツ／絵 生野幸吉／訳 岩波書店 (E.M アカ)

『おおかみと七ひきのこやぎ—グリム童話—』

グリム／[原作] フェリクス・ホフマン／え せたていじ／やく 福音館書店 (E.M 材)

『おどる12人のおひめさま—グリム童話— 新版』

グリム／[原作] エロール・ル・カイン／え やがわすみこ／やく ほるぷ出版 (E.M 朴)

『白雪姫と七人の小人たち』

グリム／[作] ナンシー・エコーム・バーカート／画 八木田宜子／訳 富山房 (E.M シ)

『しらゆき べにばら—グリム童話—』

グリム／[原作] バーバラ・クーニー／絵 鈴木晶／訳 ほるぷ出版 (E.M シ)

『つぐみのひげの王さま—グリム童話—』

グリム／著 フェリックス・ホフマン／え 大塚勇三／やく ペンギン社 (E.M ツク)

『ながいかみのラプンツェル—グリム童話—』

グリム／[原作] フェリクス・ホフマン／え せたていじ／やく 福音館書店 (E.M カ)

『七わのからす—グリム童話—』

グリム／[原作] フェリクス・ホフマン／え せたていじ／やく 福音館書店 (E.M ナ)

『ねむりひめ—グリム童話—』

グリム／[原作] フェリクス・ホフマン／え せたていじ／やく 福音館書店 (E.M 衾)

『ブレーメンのおんがくたい—グリム童話—』

グリム／[原作] ハンス・フィッシャー／え せたていじ／やく 福音館書店 (E.M フル)

むかしばなし (よみもの)

グリム童話<sup>どうわ</sup>やそのほかのドイツのむかしばなしで、よみものになっているおはなしを<sup>しょうかい</sup>紹介します。  
朝読書の時間<sup>あさどくしょ</sup>や毎晩<sup>じかん</sup>1話<sup>まいばん</sup>ずつ<sup>わ</sup>読む<sup>よ</sup>のにも、おすすめです。

『子どもに語るグリムの昔話』 1~6

グリム/[著] 佐々梨代子/訳 野村法/訳  
こぐま社 (94.3)

グリムの<sup>むかしばなし</sup>昔話のうち「おおかみとセヒキの子やぎ」「おいしいおかゆ」など、1冊に10~12話があります。声<sup>こえ</sup>に出して読みやすく、そして、聞きやすいお話を<sup>はなし</sup>ばかりです。自分<sup>じぶん</sup>で読む<sup>よ</sup>のでも、誰<sup>だれ</sup>かに読んであげるにもおすすめの本<sup>ほん</sup>です。

『黒いお姫さまードイツの昔話ー』

ヴィルヘルム・ブッシュ/採話

上田真而子/編・訳 福音館書店 (94.3)  
子どものいないお姫<sup>きさき</sup>さまが「悪魔<sup>あくま</sup>からでもさずかりたい」といいました。まもなく、女<sup>おんな</sup>の子<sup>こ</sup>をさずかります。しかし、あしたは十五歳<sup>じゅうごさい</sup>のたんじょう日<sup>び</sup>というとき、お姫<sup>ひめ</sup>さまは「わたしは死<sup>し</sup>ななければなりません」というのです。ブッシュが<sup>あつ</sup>集めた<sup>むかしばなし</sup>昔話<sup>わ</sup>11話<sup>たの</sup>を楽し<sup>たの</sup>しめます。

☆そのほかにおすすめしたい本☆

『ヘンゼルとグレーテル』

[グリム][原作] ワンダ・ガアグ/再話 佐々木マキ/やく・絵 福音館書店 (92.T 刊)

『メルヘンビルダーーフィッシャーが描いたグリムの昔話ー』

グリム/[著] ハンス・フィッシャー/絵 佐々梨代子/訳 野村法/訳 こぐま社 (92.T 刊)

『グリムの昔話』 1~3

[グリム]/[著] フェリクス・ホフマン/編・画 大塚勇三/訳 福音館書店 (92 刊)

『グリム童話集』 上・下

グリム/[著] 佐々木田鶴子/訳 出久根育/絵 岩波書店 (94.3)

『グリムのむかしばなし』 1・2・グリムのゆかいなおはなし

グリム/[著] ワンダ・ガアグ/編・絵 松岡享子/訳 のら書店 (94.3)

『真夜中の鐘がなるときー宝さがしの13の話ー』

オトフリート・プロイスラー/作 佐々木田鶴子/訳 スズキコージ/絵 小峰書店 (94.3)

『地獄の使いをよぶ呪文ー悪魔と魔女の13の話ー』

オトフリート・プロイスラー/作 佐々木田鶴子/訳 スズキコージ/絵 小峰書店 (94.3)

『魂をはこぶ船ー幽霊の13の話ー』

オトフリート・プロイスラー/作 佐々木田鶴子/訳 スズキコージ/絵 小峰書店 (94.3)

『うんちしたのはだれよ!』

ヴェルナー・ホルツヴァルト／文  
ヴォルフ・エールブルッフ／絵  
関口裕昭／訳 偕成社 (E ヲ)

もぐらくんのあたまのうえに、だれかのおとしものがおちてきました。おとしものは、うんちです。もぐらくんは、だれがうんちをしたのかをさがしにいきます。

『きえたぐらぐらのは』

コルネーリア・フンケ／文  
ケルスティン・マイヤー／絵

あさみしょうご／訳 WAVE 出版 (E 𠄎)  
アナは、ぐらぐらのはがぬけるのをたのしみにしていました。でも、おとうととかいぞくごっこをしているうちに、はがどこかにいってしまい、アナはなきだしてしまいます。

『きかんしゃヘンリエッテ』

ジェームス・クリュス／さく  
リーズル・シュティッヒ／え  
はたさわゆうこ／やく フレーベル館 (E 𠄎)

なつのあるひ、ちいさなきかんしゃヘンリエッテは、のりおくれるこどもがないように、のんびりまっています。それから、まちのこどもたちをたくさんおせて、しゅっぱつします。

『まほうつかいのでしーゲーテのパラードによるー』

ゲーテ／[原作] 上田真而子／文  
斎藤隆夫／絵 福音館書店 (E 𠄎)

まほうつかいのせんせいが、るすのあいだに、でしはせんせいのまねをして、じゅもんをと覚えてみました。そうすると、なんとじゅもんがきいて、ほうきにてとあしが、はえてきました。

☆そのほかにおすすめしたい本☆

『うさぎのくにへ』 ジビュレ・フォン・オルファース／作 秦理絵子／訳 平凡社 (E ヲ)

『風さん』 ジビュレ・フォン・オルファース／作 秦理絵子／訳 平凡社 (E 𠄎)

『しかのハインリッヒ』 フレッド・ロドリアン／作 ヴェルナー・クレムケ／絵  
上田真而子／訳 福音館書店 (E 𠄎)

『ぞうのさんすう』 ヘルメ・ハイネ／さく いとうひろし／やく あすなろ書房 (E ヲ)

『根っこのこどもたち目をさます』 ジビレ・フォン・オルファース／え  
ヘレン・ディーン・フィッシュ／ぶん いしいももこ／やく・へん 童話館出版 (E 𠄎)

『ねっこぼっこ』 ジビュレ・フォン・オルファース／作 秦理絵子／訳 平凡社 (E 𠄎)

『もじゃもじゃペーター 新版』  
ハインリッヒ・ホフマン／さく ささきたづこ／やく ほるぷ出版 (E 𠄎)

『ゆきのおしろへ』 ジビュレ・フォン・オルファース／作 秦理絵子／訳 平凡社 (E 𠄎)

『ラ・タ・タ・タムーちいさな機関車のふしぎな物語ー』  
ペーター・ニクル／文 ビネッテ・シュレーダー／絵 矢川澄子／訳 岩波書店 (E ヲ)

『ラウラとふしぎなたまご』  
ビネッテ・シュレーダー／文絵 ささきたづこ／訳 岩波書店 (E ヲ)

『忘れても好きだよおばあちゃん!』 ダグマー・H.ミュラー／作 フェレーナ・バルハウス／絵  
ささきたづこ／訳 あかね書房 (E 𠄎)



『ちびドラゴンのおくりもの』

イリーナ・コルシュノフ／作 酒寄進一／訳

国土社 (92.T コ)

ハンノーは、入<sup>にゅうがくしき</sup>学<sup>ひ</sup>式<sup>こ</sup>の日からいじめっ子にいやなことばかりされますが、ゆうきがなくてだまってしまっています。ある日、公<sup>ひ</sup>園<sup>こうえん</sup>でドラゴンにあいます。ドラゴンもドラゴンの国<sup>くに</sup>の学<sup>がっこう</sup>校<sup>がっこう</sup>でおちこぼれでした。ハンノーとドラゴン<sup>とも</sup>は友<sup>とも</sup>だちになります。

『しょうぼうしょは大いそがし』

ハネス・ヒュットナー／作

たかはしふみこ／訳 徳間書店 (92.T ヒ)

しょうぼうしさんたちが、おやつのじかんをたのしもうとしたそのとき、ジリリリーンと電話<sup>でんわ</sup>がなりました。なんと、クーヘンばあさんのうちが、火<sup>か</sup>事<sup>じ</sup>だということです。しょうぼうたいは、きんきゅうしゅつどうします。

『ペットショップはぼくにおまかせ』

ヒルケ・ローゼンボーム／作

若松宣子／訳 徳間書店 (92.T ト)

ティミーは金<sup>きんぎょ</sup>魚<sup>ぎょ</sup>のえさをペットショップ『ペ<sup>か</sup>ット<sup>みせ</sup>ランド』に買いにいきました。でも、お店にはだれもいません。そしてお店<sup>みせ</sup>にいたオウムが「いっしょにお店のめんどうをみてほしい」とたのんできました。ティミーはオウムやカメといっしょに、お<sup>きゃく</sup>客<sup>きゃく</sup>さんのなやみごとやたのみごとをかいけつしていきます。

『ライオンがいないどうぶつ園』

フレート・ロドリアン／作

たかはしふみこ／訳 徳間書店 (92.T ト)

プリッツェル<sup>まち</sup>町<sup>ひと</sup>の人びとは、どうぶつが<sup>だい</sup>大<sup>だい</sup>すきです。ですので、町<sup>ちょう</sup>長<sup>ちやう</sup>は、みんなのためにどうぶつ<sup>えん</sup>園<sup>つ</sup>を作<sup>つく</sup>りました。みんなはよろこんであたらしいどうぶつ<sup>えん</sup>園<sup>えん</sup>にいきましたが、完<sup>かん</sup>成<sup>せい</sup>したどうぶつ<sup>えん</sup>園<sup>えん</sup>にライオンはいませんでした。ピーネとウリは、考<sup>かん</sup>え<sup>が</sup>て、もっとよく考<sup>かん</sup>え<sup>が</sup>て、いいことを思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>つきます。

☆そのほかにおすすめしたい本☆

『ウサギのトトのたからもの』

ヘルメ・ハイネ／作・絵 はたさわゆうこ／訳 徳間書店 (92.T ハイ)

『わたしジャネット 1年生よ』

イルメラ=ブレンダー／作 上田真而子／訳 偕成社 (92.T フ)

『森のなかでみつけたよ』

ヴォルフラム・ヘーネル／文 酒寄進一／訳 ほるぷ出版 (92.T ヘ)

『パパ、とりかえっこしない?』(おとぼけアンナシリーズ) ★

マンフレート・マイ／さく ひらのきょうこ／やく (92.T マイ)

『ちびくまくんの夜のぼうけん』★

イングリート=ユーベ／さく ささきたづこ／やく 偕成社 (92.T イ)

『空からきたひつじ』

フレート・ロドリアン／作 たかはしふみこ／訳 徳間書店 (92.T ト)

『ぼくよわむしじゃない』

イリーナ・コルシュノウ／作 かんざきいわお／訳 さ・え・ら書房 (92 コ)

『ぼくのあいぼうはカモノハシ』

ミヒヤエル・エングラール／作

はたさわゆうこ／訳 徳間書店 (92 イ)

ルルスが<sup>あまやど</sup>雨宿りをしていると、「キュウウ」と鳴き<sup>な</sup>声<sup>こえ</sup>が聞こえてきました。植<sup>う</sup>え込<sup>こ</sup>みをのぞいて、<sup>こえ</sup>声をかけると、なんと、<sup>にんげん</sup>人間のこ<sup>こ</sup>とばをしゃべるカモノハシがいました。そして、「オーストラリアへいっしょに行<sup>い</sup>ってくれ」といってきます。ルルスはカモノハシをオーストラリアへつれていけるのでしょうか？

『リンドバークー空飛ぶネズミの大冒険ー』★

トーベン・クールマン／作 金原瑞人／訳

ブロンズ新社 (92 ク)

<sup>としょかん</sup>図書館で本や新聞を<sup>す</sup>読むことが好きな、知<sup>し</sup>りたがりやのネズミがいました。ある日、この小ネズミは、なかまのネズミがいなくなってしまうことに気づきます。きっと、遠くの国アメリカに<sup>い</sup>ってしまったのでしょ<sup>う</sup>。小ネズミは、なかまに<sup>あ</sup>うために、アメリカに<sup>ほうほう</sup>いく方法<sup>ほうほう</sup>をか<sup>か</sup>んがえます。

『くろグミ団は名探偵』★

ユリアン・プレス／作・絵 大社玲子／訳

岩波書店 (92 ル)

「くろグミ<sup>だん</sup>団」のフィリップとフローとカー<sup>つ</sup>口は、先生に連れられて<sup>しゅうどういん</sup>修道院の見学にきました。説明によると守<sup>せつめい</sup>り神として7羽の<sup>わ</sup>カラスが住<sup>す</sup>んでいるはずですが1羽<sup>わ</sup>いません。「くろグミ<sup>だん</sup>団」といっしょに本のページの中<sup>なか</sup>から探<sup>さが</sup>してみま<sup>ま</sup>しょう。絵解<sup>え</sup>きミステリーです。

『ふしぎなオルガン 新版』

リヒャルト・レアンダー／作 国松孝二／訳

岩波書店 (92 レア)

ある<sup>ひやくしやう</sup>百<sup>ねが</sup>姓<sup>ねが</sup>が、一つだけ願<sup>ねが</sup>いごとがかな<sup>う</sup>う魔法<sup>まほう</sup>の指<sup>ゆびわ</sup>輪<sup>わ</sup>を手<sup>て</sup>に入<sup>い</sup>れました。百<sup>ひやくしやう</sup>姓<sup>ねが</sup>は、ど<sup>ん</sup>んな願<sup>ねが</sup>いごとをするのでしょ<sup>う</sup>か。ほかに<sup>あくま</sup>悪魔<sup>あくま</sup>や王<sup>ひめ</sup>さま、お姫<sup>ひめ</sup>さまなどが<sup>とうじやう</sup>登<sup>あ</sup>場<sup>じやう</sup>する話<sup>はなし</sup>があります。20編の短編<sup>へん</sup>童話<sup>たんぱんどうわしやう</sup>集<sup>しゆ</sup>。短<sup>みじか</sup>い話<sup>はなし</sup>のため朝読<sup>あさどくしよ</sup>書<sup>しよ</sup>にもおすす<sup>め</sup>めです。

☆そのほかにおすす<sup>め</sup>めしたい本☆

『火のくつと風のサンダル』

ウルズラ・ウェルフェル／作 関楠生／訳 童話館出版 (92 ウ)

『ティナのおるすばん』 イリーナ・コルシュノフ／作 石川素子／訳 福武書店 (92 コ)

『だから、ぼくは強いクマなんだ』

イリーナ・コルシュノウ／作 虎頭恵美子／訳 大日本図書 (92 コ)

『シモンとクリスマスねこークリスマスまでの24のおはなしー』

レギーネ・シントラー／ぶん 下田尾治郎／やく 福音館書店 (92 シ)

『おばあちゃん、ぼしゅう中!』

アーニャ・トゥッカーマン／作 齋藤尚子／訳 徳間書店 (92 ト)

『マイカのこうのとりに』

ベンノー・プルドラ／作 上田真而子／訳 岩波書店 (92 ル)

『氷の上のボーツマン』

ベンノー・プルドラ／作 上田真而子／訳 岩波書店 (92 ル)

『おとうさんとぼく 新版』 e.o.プラウエン／作 岩波書店 (92 フ)

『くろて団は名探偵』 ハンス・ユルゲン・プレス／作 大社玲子／訳 岩波書店 (92 ル)

よみもの (オトフリート・プロイスラー作)

『大どろぼうホッツェンプロッツ』★

プロイスラー／作 トリップ／絵  
中村浩三／訳 偕成社 (92 70)

カスパー<sup>とも</sup>ールと友だちのゼッペルは、おばあさんの<sup>たんじょうび</sup>誕生日にコーヒーひきをおくりました。おばあさんがコーヒーひきをつかっていると、大どろぼうホッツェンプロッツがうばって<sup>いって</sup>しまいました。カスパーとゼッペルは<sup>けいさつ きょうりやく</sup>警察に協力して、大どろぼうホッツェンプロッツをつかまえる<sup>けっしん</sup>決心をします。

『大力のワーニャ』

オトフリート・プロイスラー／作  
大塚勇三／訳 岩波書店 (92 70)

ある日森で、ワーニャは老人<sup>ろうじん</sup>に「かまどの上でねて、なまけろ。屋根<sup>やね</sup>をもちあげられるようになったら、はるかな<sup>くに</sup>国をめぐ<sup>い</sup>して出て<sup>た</sup>て」といわれます。7年後、怪力<sup>かいりき</sup>を身につけたワーニャは白い山々のおこうを目指して旅立ちます。怪物<sup>かいぶつ</sup>や盗賊<sup>とうぞく</sup>、魔女<sup>まじよ</sup>とたたかう<sup>ぼうけん</sup>冒険物語です。

☆そのほかにおすすめしたい本☆

- 『小さい水の精』 オトフリート・プロイスラー／作 はたさわゆうこ／訳 徳間書店 (92 70)  
『小さいおばけ』 オトフリート・プロイスラー／作 はたさわゆうこ／訳 徳間書店 (92 70)  
『小さい魔女』 オトフリート・プロイスラー／著 大塚勇三／訳 学研 (92 70)  
『わたしの山の精霊(リュベツァール)ものがたりー山の神さまにまつわる 24 と 3 つのお話ー』  
オトフリート・プロイスラー／作 吉田孝夫／訳 さ・え・ら書房 (92 70)  
『かかしのトーマス』  
オトフリート・プロイスラー／作 吉田孝夫／訳 さ・え・ら書房 (92 70)

よみもの (エーリヒ・ケストナー作)

『エーミールと探偵たち 改版』★

ケストナー／作 高橋健二／訳 岩波書店  
(92 72)

エーミールは、一人で<sup>れっしゃ</sup>列車に乗って、おかあさんのお金をベルリンのおばあさん<sup>とど</sup>に届けに行くことになりました。でも、<sup>れっしゃ</sup>列車の中で<sup>ねむ</sup>眠ってしまい、お金をぬすまれてしまいます。エーミールはどろぼう<sup>つか</sup>を捕まえるため、町にとびだしていきます。

『点子ちゃんとアントン 改版』

ケストナー／作 高橋健二／訳 岩波書店  
(92 72)

点子ちゃんは、ダックスフント<sup>か</sup>を飼っているお芝居<sup>しばい</sup>が好きな女の子です。友だちのアントンは<sup>まず</sup>貧しいですが、<sup>びょうき</sup>病気のおかあさんをいたわ<sup>よういくがかり</sup>ってくらしています。点子ちゃんと<sup>りょうしん</sup>養育係のアンダハトさんは、<sup>へんそう</sup>両親がパーティーに出かけると、<sup>へんそう</sup>変装して家をぬけ出しました。

☆そのほかにおすすめしたい本☆

- 『飛ぶ教室 改版』 ケストナー／作 高橋健二／訳 岩波書店 (92 72)  
『五月三十五日 改版』 ケストナー／作 高橋健二／訳 岩波書店 (92 72)  
『ふたりのロツテ 改版』 ケストナー／作 高橋健二／訳 岩波書店 (92 72)  
『わたしが子どもだったころ 改版』 ケストナー／作 高橋健二／訳 岩波書店 (92 72)  
『サーカスの小びと 改版』 ケストナー／作 高橋健二／訳 岩波書店 (92 72)



『カイウスはばかだ』

ヘンリー・ウィンターフェルト／作  
関楠生／訳 岩波書店 (92 ウ)

授業中<sup>じゅぎょうちゆう</sup>にいたずらをしてくるカイウスに腹<sup>はら</sup>がたったルーフスは、壁<sup>かべ</sup>に書字板<sup>しょじばん</sup>をぶらさげて「カイウスはばかだ」と書きます。すぐに先生に見つかり、ルーフスは退学<sup>たいがく</sup>するよう<sup>よう</sup>にいわれてしまいます。翌朝<sup>よくあさ</sup>、授業<sup>じゅぎょう</sup>がはじまる時間になっても、先生とカイウスとルーフスは来ません。先生の部屋を見てみると、めちゃくちゃ<sup>あ</sup>に荒らされていきました。古代ローマの名門学校に通う七人の探偵<sup>たんてい</sup>物語です。

『ジム・ボタンの機関車大旅行』★

ミヒヤエル・エンデ／作 上田真而子／訳  
岩波書店 (92 イ)

小さな島国<sup>しまぐに</sup>フクラム国には、王さまと2人の家来<sup>きかんし</sup>と機関士<sup>きかんしゃ</sup>ルーフス、機関車<sup>きかんしゃ</sup>エマが住んでいました。ある日、赤んぼうが入った小包<sup>こづつみ</sup>が配達<sup>はいたつ</sup>されてきます。赤んぼうは、ジム・ボタンと名付けられ、大切に育てられました。成長<sup>なつ</sup>したジムは、機関士<sup>きかんし</sup>ルーフスと機関車<sup>きかんしゃ</sup>エマとともに旅にでます。立ち寄<sup>よ</sup>ったマンダラ国の広場で、リーシー姫<sup>ひめ</sup>がさらわれたことを知り、救<sup>すく</sup>い出すため、竜<sup>りゅう</sup>の町へ向かいます。

『リーコとオスカーともっと深い影』★

アンドレアス・シュタインヘーフェル／作  
森川弘子／訳 岩波書店 (92 ヅ)

リーコは探偵<sup>たんてい</sup>ごっこが好きな、特別<sup>とくべつしえん</sup>支援<sup>す</sup>がっこう学校に通う男の子です。小さくて賢<sup>かしこ</sup>いオスカーと友だちになり、次の日も遊ぶ<sup>あそ</sup>約束<sup>やくそく</sup>をします。でも、次の日、どんなにまってもオスカーはあられませんでした。リーコは夕方のニュースで、オスカーが誘拐<sup>ゆうかい</sup>されたことを知ります。

『シュトツフェルの飛行船』

エーリカ・マン／作 若松宣子／訳  
岩波書店 (92 マ)

みずうみ湖<sup>うみ</sup>のそばに住む10歳<sup>さい</sup>のシュトツフェル。午前中は学校へ行き、午後はボート屋をして家計を助けています。しかし、生活は苦しくなるばかりでした。ある夏の日、シュトツフェルは、家族の生活を守るためのアイデアが浮かびます。ボートに乗って、10日間の旅に出かけました。

☆そのほかにおすすめしたい本☆

- 『レクトロ物語』 ライナー・チムニク／作 上田真而子／訳 福音館書店 (92 フ)
- 『ぼくたちの船タンバリ』 ベンノー・プルードラ／作 上田真而子／訳 岩波書店 (92 フ)
- 『はてしない物語』  
ミヒヤエル・エンデ／作 上田真而子／訳 佐藤真理子／訳 岩波書店 (92 イ)
- 『魔法のカクテル』 ミヒヤエル・エンデ／作 川西芙沙／訳 岩波書店 (92 イ)
- 『魔法の学校—エンデのメルヒェン集—』  
ミヒヤエル・エンデ／作 矢川澄子／[ほか]訳 岩波書店 (92 イ)
- 『まほうのスープ』  
ミヒヤエル・エンデ／文 ティーノ／絵 ささきたづこ／訳 岩波書店 (92 イ)
- 『モモ』 ミヒヤエル・エンデ／作 大島かおり／訳 岩波書店 (92 イ)

よみもの（中高生）

もっとドイツのよみものに挑戦したいときにおすすめの本を紹介します。

『愛の一家ーあるドイツの冬物語ー』

アグネス・ザッパー／作 遠山明子／訳

福音館書店（92 ヶ）

音楽好きな両親と7人の子どもたちは、お手つだいさんとともに仲良く暮らしていました。冬から春へと季節がめぐるなか、誠実さや思いやり、知恵を出し合うことで乗りこえていきます。約100年前に書かれた、とある家族が織りなす賑やかであたたかな日常の物語。

『冷たい心臓ーハウフ童話集ー』

ヴィルヘルム・ハウフ／作 乾侑美子／訳

T.ヴェーバー／ほか画

福音館書店（92 ハ）

退屈をまぎらわすために、または、他国で奴隷となっている息子がいつか解放されて家に帰るようにとの願いをこめて、物語を語り合います。アラブやドイツなどを舞台に、盗賊や海賊があらわれる不思議な枠物語集。

『あのころはフリードリヒがいた』★

ハンス・ペーター・リヒター／作

上田真而子／訳 岩波書店（92 リ）

1925年、「ぼく」とフリードリヒは、一週間ちがいで生まれました。「ぼく」の父は失業中で、フリードリヒの家は裕福でしたが、2人は一緒に遊んで成長してきた仲のいい友だちでした。でも、ヒトラー政権下、ユダヤ人だったフリードリヒは、学校でも、町中でも、次第に迫害されていきます。

『飛び込み台の女王』

マルティナ・ヴィルトナー／作 森川弘子／訳

岩波書店（Y92 ウ）

ナージャと幼なじみのカルラは、6歳のときに飛び込み体験コースに通い始めてから、生活の中心はプールになりました。10歳からはオリンピック選手も輩出する体育学校に進学しています。12歳になり、ナージャにとってカルラは「飛び込み台の女王」であり、勝たれたいと思ったことは1度もありませんでした。

☆そのほかにおすすめしたい本☆

『ゼバスチアンからの電話』

イリーナ・コルシュノフ／作 石川素子／共訳 吉原高志／共訳 福武書店（92 コ）

『ママは行ってしまった』

クリストフ・ハイン／作 松沢あさか／訳 さ・え・ら書房（92 ハ）

『クラブート』

オトフリート＝プロイスラー／作 中村浩三／訳 偕成社（92 フ）

『風に向かったの旅』

ペーター・ヘルトリング／作 上田真而子／訳 偕成社（92 ヌ）

『波紋』

ルイーゼ・リンザー／作 上田真而子／訳 岩波書店（92 リ）

『灰色の畑と緑の畑』

ウルズラ・ヴェルフェル／作 野村滋／訳 岩波書店（Y92 ウ）

『ミムスー宮廷道化師ー』

リリ・タール／作 木本栄／訳 小峰書店（Y92 フ）

『14歳、ぼくらの疾走ーマイクとチックー』

ヴォルフガング・ヘルンドルフ／作 木本栄／訳 小峰書店（Y92 ヌ）

『アンネの日記 増補新訂版』

アンネ・フランク／著 深町真理子／訳 文芸春秋（Y F2 フ）

ドイツを知ろう！

『ヨーロッパの小学生 5 ドイツの小学生』

多田孝志／監修 学研教育出版 (29)

ドイツの子どもたちも日本の子どもたちと同じように、学校に行き、習い事や、家の手伝いをして生活をしています。この本一冊で、ドイツの小学生の生活のこと、そしてドイツの歴史も知ることができます。表紙にあるドイツ語の言葉「グーテン ターク」は、「こんにちは」という意味です。

『ドイツ (ナショナルジオグラフィック世界の国)』

ヘンリー・ラッセル／著

ベネディクト・コルフ／監修

アンティエ・シュロットマン／監修

ほるぷ出版 (29)

ドイツの気候や生物分布や歴史、文化、芸術、人口分布、州、政治体制など、ドイツのことがくわしく紹介されています。ドイツという国を調べたいときにおすすめです。

『ドイツのごはん』

銀城康子／文 マルタン フェノ／絵

農山漁村文化協会 (59.6)

ドイツの人はどんな食事をしているのでしょうか。パンやジャガイモに合わせて、スープとハムやソーセージで食事にすることが多いようです。ドイツの料理である野菜スープやジャガイモのパンケーキの作り方も載っていますので、本を読んだ後に作ってみてはどうでしょうか。

『ようこそ、難民!』

—100万人の難民がやってきたドイツで起こったこと—

今泉みね子／著 合同出版 (91 17)

マックスには、いろいろなルーツを持つ友達がありますが、ドイツで生まれ育っているため、ドイツの文化も言葉も知っています。しかし、ある日転校してきた子たちは、ドイツ語があまり話せませんでした。なぜなら、イラクやシリアから難民としてたどり着いたばかりだったからです。マックスは転校生と友達となり、難民についても学びはじめます。

☆そのほかにおすすめしたい本☆

『体験取材!世界の国ぐに 28 ドイツ』

渡辺一夫／文・写真 那須田淳／監修 ポプラ社 (29)

『世界の子どもたちはいま 18 ドイツの子どもたち』 学研 (29)

『世界の中学生—みんなで楽しく国際交流!—11 ドイツの中学生』 学研 (29)

『国際理解にやくだつ NHK 地球たべもの大百科 6』

ノルウェー—バイキング料理— ドイツ—ジャガイモ料理—

谷川彰英／監修 ポプラ社 (59.6)

『旅するこどものドイツ語—ミュンヘン編 楽しく外国の言葉と文化にふれられる—』

コンデックス情報研究所／編著 成美堂出版 (84)



ほん さが とき 本を探す時は（Eホウ）や（29）などのラベルを<sup>み</sup>てください。

ラベルに<sup>か</sup>書いてある、カタカナや<sup>すうじ</sup>数字は<sup>せいきゅうきごう</sup>請求記号です。

としよかんの<sup>ほん</sup>本は<sup>しょか</sup>書架に<sup>せいきゅうきごうじゆん</sup>請求記号<sup>なら</sup>順で並んでいます。

みつけれないときは、としよかんのひとにきいてください。